

ツツバ語の所有表現 —オセアニアの言語との比較—

内藤 真帆

1. はじめに

ツツバ語は、南太平洋に浮かぶヴァヌアツ共和国のツツバ島で約 500 人¹ (Lynch and Crowley 2001) に話される言語である。この言語はオーストロネシア語族のオセアニア諸語に属し、語順は SVO、対格型である。

本稿は様々な形式で表されるツツバ語の『所有』表現に注目し、この言語で分離不可能と分離可能という概念が文法構造上、所有物の性質や所有者との緊密度と関連してどのように区別されているのかを明らかにすることを目的としている。

本稿ではまずオセアニアの言語に見られる所有表現を紹介し、本項が扱うツツバ語の所有関係を簡単に説明する。次にツツバ語に見られる複数の所有表現 (名詞句) を説明し、直接所有構造と間接所有構造という構造の違いを示す。そして所有物に共通する性質や所有物と所有者との緊密度がこの二つの構造とどのように関連しているのか具体例を挙げながら考察する。その後、所有者の強調や所有物の省略など有標である所有形式 (名詞句) を説明し名詞節と考えられる所有表現を示す。最後に結論として所有物と所有表現の関係を一覧にした表と、ツツバ語の所有表現 (名詞句) の主要部とそれを修飾する語句が現れうる順番を示す。

1.1. 自由名詞と拘束名詞

本稿では単独で現れることができ、文の構成要素のいずれかになりうるものを単語と規定する。この言語の形態素の多くは、単独で単語として用いられる。このように形態素それ自体で独立して語となるものを自由名詞、単独では語として生起できないものを拘束名詞と形式的に区別し、拘束名詞にはハイフンをつけて表示する。

¹SIL の 1986 年のデータにはツツバ語の話者数が約 150 人と記載されている。

名詞	自由名詞	fiae	'tree'
	拘束名詞	natu-	'son'

多くのオセアニアの言語がそうであるように、動物や植物、一般的な物は自由名詞であるのに対し、親族名称や身体部位、上・下など全体の一部分²は拘束名詞である。

固有名詞以外の自由名詞の語根には、-i と -nde という二つの接尾辞のどちらかが付加しうる。接尾辞の付加により生じる意味的变化はなく、この二つの接尾辞は、日本語の「○○ちゃん」のような心理的な親しさを表すものであると考えられる。語根末が子音または高母音のときは接尾辞-nde が付加し、中・低母音のときは接尾辞-i が付加する。

		語 末					
		i	e	a	o	u	子音
接尾辞	-i	-	○	○	○	-	-
	-nde	○	-	-	-	○	○

1.2. 名詞の修飾と所有

ツツバ語の所有表現を考察する前に、まずこの言語ではどのように名詞句が修飾されるのかを見てみることにする。

形容詞や数量詞が名詞句を修飾する際には、修飾語が名詞句に後置される。

- (1) firiu forfor
 dog small
 'small dog'

- (2) tamoloi tarina ro lo retireti
 man many 3PL Prog talk
 'Many men were talking.'

同様に名詞句が名詞句を修飾する際にも修飾語が名詞句に後置される。

- (3) tamoloi mera
 person male
 'the male'

² 「位置関係を示すもの」であるとも考えられる。

名詞句が名詞句を修飾するとき、次の(4)のように『所有』の関係が表されることがある。この例のように所有の関係を表す名詞句では、先行する名詞句が所有物、そして後置された名詞句が所有者であることが多い。

- (4) *tangai* no -m
 bag Class -2SG.Poss
 ‘*your bag*’

続いてツツバ語の所有表現をいくつか見てゆくことにする。次の(5)から(7)の所有表現からも分かるように、ツツバ語の名詞は格の曲用を行なわない。また日本語の「私の足」、「本の表紙」に見られるような、全ての所有物(名詞句)に用いることが可能な従属部標示的な形式もない。

この言語では、(5)のように名詞句に直接付加し主要部標識化した所有者代名詞接辞(-ku)、(6)のように二つの名詞句、つまり所有物と所有者の関係を決定する類別詞(bula-)、そして(7)のように二つの名詞句を結ぶ所有者連結辞(-n)などが生起して所有が表される。

- (5) *batu -ku*
 head -1SG.Poss
 ‘*my head*’
- (6) *nani* *bula -ku*
 goat Class-1SG.Poss
 ‘*my goat*’
- (7) *suasua -n* *balmbala*
 angle -Linker *table*
 ‘*angle of a table*’

このほか、『所有』の表現には(8)のような文も挙げられる。これは調査の媒介言語であるビスラマ語(ピジン英語)で「AはBを持っている」という表現を聞いたときに得られた文である。この文では所有が名詞句の並置ではなく、「存在する」という意味の動詞によって表されている。

- ビスラマ語 *i* *gat* *orengi* *lo* Vanuatu
 Pred. have orange PP Vanuatu

- = (8) famol me rei Vanuatu
 Orange 3SG exist Vanuatu
 ‘Vanuatu has oranges.’ (‘There are oranges in Vanuatu.’)

このようにツツバ語には様々な所有表現が存在する。そしてその中には所有関係にあると想起しにくいものもある。例えば日本語では上・下といった部分を表す語は自由名詞であるが、ツツバ語では常に所有者代名詞接辞が付加する拘束名詞である。

- (9) ruirui -na (10) * ruirui
 under -3SG.Poss
 ‘under’

本稿では『所有』の意味には厳密な規定を加えず、代名詞接辞や所有者連結辞、分類詞を含んだ表現を全て『所有の表現』として取り上げることとする。

2. 所有表現

2.1. 所有の形式

ツツバ語には大きく分けて二つの所有形式が句のレベルに存在している。ひとつは(11)に見られるように、所有物が単独で現れることができず、所有物に所有者代名詞接辞が付加する形式である。そしてもうひとつは(12)に見られるように所有物が単独で現れることができ、類別詞に所有者代名詞接辞が付加する形式である。

- (11) lima -ku
 arm -1SG.Poss
 ‘my arm’
- (12) firiu bula -ku
 dog Class -1SG.Poss
 ‘my dog’

本稿では他のオセアニア諸語にならい、所有物に所有者を表す代名詞接辞が直接付加する前者の構造を「直接所有の構造 (direct possessive constructions)」と呼ぶことにする。そして同様に、類別詞が現れ所有者 (代名詞) が所有物に直接付加しない後者の構造を「間接所有の構造 (Indirect possessive constructions)」と呼ぶことにする³。

³オセアニアの言語に関する文献の中で「直接」・「間接」所有は伝統的にそれぞれ「分離不可能」・「分離

上の二つは所有者が代名詞の例であったが、所有者が普通名詞や固有名詞のときには所有物と所有者を結ぶ(所有者)連結辞が生起する。直接所有の構造では所有物に連結辞が付加し(13)、また間接所有の構造では類別詞に連結辞が付加する(14)。これがそれぞれ三つ目、四つ目の形式である。

(13) lima -n Vemoli
 arm -Link. Vemoli
 ‘Vemoli’s arm’

(14) friu bula -n Vemoli
 dog Class -Link Vemoli
 ‘Vemoli’s dog’

これまで見てきた所有を表す四つの形式をまとめると次のようになる。

① 直接所有

所有物	所有者
名詞	— 所有者代名詞接辞

② 間接所有

所有物	所有者
名詞句	類別詞 — 所有者代名詞接辞

③ 直接所有 連結辞タイプ

所有物	所有者
名詞句—連結辞	名詞句

④ 間接所有 連結辞タイプ

所有物	所有者
名詞句	類別詞—連結辞 名詞句

可能」と表示されてきた (Rehg 2001: 218)。本稿では形式について述べるとき「直接」・「間接」という術語を用い、それぞれの所有形式の指示物(名詞句)について述べるときに「分離不可能(所有名詞)」・「分離可能(所有名詞)」を用いることにする。この用語についての説明は 2.2 でも行う。

2.2. 形式と意味の関係

間接所有形式の類別詞に関しては3.2.1.で説明することにし、ここではまず所有の形式と指示物の関係について見てゆく。

所有物が単独で現れることができず(拘束名詞)、これに所有者接辞や連結辞が付加する直接所有の形式(上の①と③)で表される指示物には、所有者との意味的つながりが強く、所有者にとって切り離せないと考えられるものが挙げられる。例えば親族名称、身体部位、声などの属性、上下といった部分を表す名詞句などがこの構造の所有物である。

一方、所有物が単独で現れることができ(自由名詞)、所有者接辞や連結辞が所有物に付加しない間接所有の形式(②と④)で表される指示物には、鞆などの一般的な物や動物、食べ物、飲み物といった所有が一時的、または自由意志によるものが挙げられる。この形式で表される所有物は、所有物と所有者のつながりがさほど強くないものであるといえる。このことから、直接所有形式と間接所有形式の区別は、所有概念の違いが反映されたものであるということが分かる。

直接所有構造の所有物は所有者にとって切り離せないものであることから、この所有物となる名詞を「分離不可能所有名詞 (inalienable nouns)」と呼び、間接所有構造の所有物は所有が一時的または自由意志によるものであることから、この所有物を「分離可能所有名詞 (alienable nouns)」と呼ぶことにする。分離不可能は譲渡不可能、分離可能は譲渡可能と呼ばれることもある。なおここでは形式面から所有物に対して分離不可能、分離可能という分類を行っているため、通念上分離不可能と考えられるものが全て直接所有の形式で表され、分離可能と考えられるものが間接所有の形式で表されるというわけではない。

3. 所有形式と指示物

3.1. ①直接所有

所有物	所有者
名詞句	－ 所有者代名詞接辞

所有物を表す名詞句の主要部(拘束名詞)に所有者代名詞接辞が直接付加し、音韻論的にひとつのユニット⁴を形成するこの所有形式を『①直接所有』とする。

⁴この言語では語末から二つ目の音節にアクセントが付与される。直接所有①のように所有物を表す名詞

以下はツツバ語の所有者代名詞接辞を一覧にしたものである。ある種の名詞にとってこの所有者代名詞接辞の付加は義務的である。ツツバ語の右の表は比較のために挙げた Lynch, Ross, Crowley の再建したオセアニア祖語である (Lynch 2001: p.150)⁵。

	SG	DL	PL
1INCL		-nda	
1EXCL	-ku	-man	
2	-m		-miu
3	-na		-ra

	SG	DL	PL
1INCL			-da
1EXCL	-ng	-ma(m)i	
2	-mu		-m(i)u
3	-n*a		-dra

*鼻音化した n

直接所有の形式で表される所有物が分離不可能所有名詞と呼ばれるように、この形式で表される所有物は、所有者にとって切り離すことができないものや非常に密接な関係にあるものである。この形式の所有物となる名詞句の主要部は次のカテゴリーに分類できる。

- 親族名称 「妻 兄弟 母親」
- 身体部位、身体にまつわるもの 「手 咳 虱」
- 属性 「声 名前 年齢 癖 習慣」
- 全体とその部分 「机の角 穴 上下・左右」
- 序数 「二番目 ○番目」
- 病気 「水虫 たむし」

3.1.1. 親族名称

親族名称は直接所有の形式で表される分離不可能名詞である。なお親族以外の人は直接所有の形式で表される (3.2.5.4.)。

(15) natu -ra
 child -1PL.Poss
 ‘their child’

(16) tama -m
 father -2SG.Poss
 ‘your father’

語根が拘束形態素であるとき、義務的に付加する所有者代名詞接辞の接辞末から数えて二つ目の音節にアクセントが置かれる。

⁵Ross(1988) の再建したオセアニア祖語と Grace(1969) 他の再建した祖語、そしてそれらとツツバ語の音素との対応関係に関しては資料の 1. を参照されたい。

(17) tina -ku
 mother -1SG.Poss
 ‘my mother’

(18) mesa -na
 wife -3SG.Poss
 ‘his wife’

(19) tasi -m
 brother -2SG.Poss
 ‘your brother’

(20) natuatua -na
 sibling -3SG.Poss
 ‘her siblings’

「父」と「母」を表す名詞には二種類ある。ひとつは (16) や (17) の tama- ‘father’ や tina- ‘mother’ のような拘束名詞、もうひとつは (22) や (23) の mama ‘father’ や soko ‘mother’ のような自由名詞である。単独で生起できる後者の名詞は、「お母さん」や「お父さん」といった呼びかけに用いられることが多く、文中に現れることは少ない。

(tama-, tina- = mama, soko)

(21) tama -ku, tina-ku ro lo to
 father-1SG.Poss mother-1SG.Poss 3PL.R Prog stay
 sara tinambua
 place different

= (22) mama, soko ro lo to sara tinambua
 father mother 3PL Prog stay place different
 ‘They live in a different place.’

(23) soko, ka fano
 mama 1SG.Ir go
 ‘Mama! I will go.’

3.1.2. 身体部位、身体にまつわるもの

手足などの身体部位や血液、咳、さらには影など身体に関連するものは単独では現れず⁶、直接所有の形式で表される。このカテゴリーに属する名詞はさらに次のように下位分類できる。

⁶身体から排出されるもの、例えば尿や咳、匂いなども分離不可能所有名詞であるが、同じく身体から排出される「汗」は分離可能所有名詞である。

身体名称	手 足 頭 肩 指
身体からの排出物・老廃物	唾 尿 便 息 咳 垢
身体に寄生するもの	虱 ⁷
その他身体にまつわるもの	血液 あざ 影

身体名称

(24) lima -ku	(25) nao -na
arm -1SG.Poss	face -3SG.Poss
'my arm'	'his face'

排出物・老廃物

(26) bona -ra	(27) sanete -na
smell -3PL.Poss	cough -1SG.Poss
'their smells'	'his cough'

(28) mere -m lo si na sapa -ku
 urine -2SG.Poss Prog. go.down Art sandal -1SG.Poss
 'Your urine is falling on my sandal!!'

身体に寄生するもの

(29) utu -ku
louse -1SG.Poss
'my louse/lice'

身体にまつわるもの

(30) ar	e	sa	na	hospital
If	2SG.Ir	go.Santo Islands direction	Art	hospital
ra	l	na	dae -m	
3PL.R.	take	Art	blood -2SG.Poss	
'If you go to hospital, they will take your blood'				

人間だけでなく、動物のしっぽやひげ、魚のえらや鱗、植物の棘などもこの所有形式の指示物である。

- | | |
|--|--|
| (31) rarau -na
roof -3SG.Poss
'roof' | (32) sarusari -na
prickle -3SG.Poss
'prickle' |
| (33) findi -na
tail -3SG.Poss
'tail' | (34) laku -na
feather -3SG.Poss
'feather, plume' |

3.1.3. 属性

声や年齢、命日⁸などの属性は直接所有の形式で表される分離不可能名詞である。

- | | |
|--|--|
| (35) isa -na
name -3SG.Poss
'her name' | (36) sia -m
age -2SG.Poss
'your age' |
| (37) sara -ku
place -1SG.Poss
'my position, place' | (38) leo -na
voice -3SG.Poss
'his voice' |
| (39) bong -na
day -3SG.Poss
'the anniversary of his death' | |

(38) の leo という語には、声だけでなく言語、発話、伝言など様々な意味がある。この語が直接所有の形式で表されると「発話」という意味であるが、(40) のように間接所有の形式で表されると「伝言」という意味になる。

- (40) leo no -na
message Class-3SG.Poss
'his message'

「発話」と「伝言」には、「発話」は発話者が発言するその行為をいうのに対し、「伝言」は発話者のメッセージを発話者以外の者が第三者に伝達する、という違いがある。発話者との緊密度を考えると、「伝言」は発話者が口にしたことを別の人間が伝えるこ

⁸bong-na 'the anniversary of a person's death' は死去した日を表す語であり、日本で言うところの命日である。しかし、毎年その日を指すのではなく、死去したその年のその日だけを指す。

とから、「発話」ほどは緊密度が高くないと考えられる。所有者との関係が緊密である「発話」が直接所有の形式で表され、「伝達」が間接所有の形式で表されるこの例は、形式と意味の関連性を示唆するものであるといえるだろう。

3.1.4. 全体の一部分

内側、正面、左右、上下など「全体の一部分」を表す名詞句は直接所有形式の指示物となることが多い。このときの所有者は「全体」を表す名詞句である。日本語では「本を中に入れる」と言うことができ、何の中であるか全体について言及する必要はない。ツツバ語ではこのような部分を表す名詞の多くが分離不可能名詞で単独では生起できないため、所有者代名詞接辞が義務的に付加するか「鞆の中」、「家の正面」のように所有者を表す名詞句と共に起る。また「穴」が全体の一部分であるとは想起しにくい、これも直接所有の形式で表される指示物である。

- | | |
|---|--|
| (41) lolo -na
inside -3SG.Poss
'inside (of it)' | (42) fomba -na
hole -3SG.Poss
'the hole (of it)' |
| (43) suasua -na
angle -3SG.Poss
'angle (of it)' | |

しかしながら「全体の一部分」を表す名詞が全て分離不可能所有名詞というわけではない。例えばツツバ語で 'inside' を意味する lolo- は分離不可能所有名詞であるが(44)、意味的にこれと対をなす名詞には二種類ある。ひとつは busa- 'outside' という分離不可能所有名詞であり、もうひとつは副詞 fare 'outside'(45) に名詞を派生させる接尾辞-a が付加してできた分離可能所有名詞である。

同様に 'under' を意味する ruirui- は分離不可能名詞であるのに対し(46)、'top' を意味する aulu は名詞ではなく副詞である(47)。このように意味的に同じ分類に属すると考えられる語であっても、分離可能・不可能の違いや品詞の違いが存在する。

- lolo -na 'inside'
- | | | |
|-------------------|-------|--------|
| (44) lolo -na | ma | mariri |
| inside -3SG.Poss | 3SG.R | cold |
| 'Inside is cold.' | | |

fare-a ‘outside’

- (45) fare -a ma lualu
 outside -N 3SG.R hot
 ‘Outside is hot.’

ruirui -na ‘underneath’

- (46) ruirui -na ma maeto
 underneath -3SG.Poss 3SG.R black
 ‘The underneath is dirty.’

aulu ‘top’

- (47) masi lo ate aulu na imai
 bird Prog. stay top Art house
 ‘The bird is on the roof.’

3.1.5. 序数

基数に所有者接辞が付加すると序数が表される。これまでに見てきた直接所有の例では、所有物を表す名詞句に所有者の人称・数に応じた所有者接辞が付加していたが、序数はその点において異なり、所有物である基数に付加できるのは三人称単数の所有者代名詞接辞だけである。また基数には他の人称の所有者代名詞接辞だけでなく、所有者の位置に普通名詞や固有名詞が生起することができないため、序数は『①直接所有』の形式によってのみ表される。

先に述べたように序数は基数に三人称単数の所有者代名詞接辞が付加して表される。例えば基数 e-rua ‘two’ は数詞を示す接頭辞⁹eが「2」という具体的数を示す rua に付加したものである。これに三人称単数の-na が付加すると e-rua-na となり、「2 番目」という序数が表される。ただし「8」は接頭辞 e-を必要としないため、「8 番目」は oalu-na となる。

- (48) e -fati -na
 numeral -four -3SG.Poss
 ‘fourth’

- (49) oalu -na
 eight -3SG.Poss
 ‘eighth’

⁹数を表す接頭辞 e-は 1 から 9 までの具体的数に付加するが、8 と 10 以降の数には付加しない。

3.1.6. 病気

病気・具体的病名は分離不可能所有名詞である。「病気である」状態を表す動詞の語基は saο であるが病気という名詞には次の二つがある。ひとつは分離不可能名詞 saο-(50)、もうひとつは状態動詞の語基 saο に名詞を派生する接尾辞 -a が付加して派生された saο-a という分離可能所有名詞である (51)。

(50) nno ntau ka isi na saο -m
 1SG.R afraid 1SG.Ir catch Art sick -2SG.Poss
 ‘I am afraid of catching your sickness.’

(51) saο-a-i no -ku
 sick-N-Aff Class -sickness’
 ‘my sickness’

先に述べたようにこの言語では接尾辞-a が動詞や副詞、形容詞の語基に付加すると名詞が派生される。このようにして派生された名詞は全て分離可能所有名詞である。次に示すように具体的な病名などは分離不可能所有名詞であることから、病気を意味する名詞も本来は分離不可能所有名詞 saο- ‘sickness’ であったと推測される。しかしこれが状態動詞 saο ‘to be sick’ と同形態であったため、類推により saο-a ‘sickness’ という分離可能所有名詞が派生されたのだろう。

(52) fano -na
 ringworm -3SG.Poss
 ‘his ringworm’

(53) fokefoke -ku
 tineā -1SG.Poss
 ‘my tineā’

3.2. ②間接所有 a.(無標)

所有物	所有者
名詞句	類別詞 – 所有者代名詞接辞

所有物を表す名詞句と所有者代名詞接辞が類別詞を介する所有形式を『②間接所有 a.』とする。

先に見た直接所有の形式で表される所有物は、所有者とのつながりが深い親族名称や身体名称などであったのに対し、間接所有の形式で表される所有物には、動物や食べ物、

飲み物など所有が一時的、または自由意志によるものが挙げられる。この所有形式で表されるものは所有物と所有者のつながりがさほど強くないものであると考えられる。

3.2.1. 類別詞

『②間接所有 a.』の形式では、所有者代名詞接辞が四種類の類別詞のいずれかに付加する。

ツツバ語の四種類の類別詞は、それぞれ所有物と所有者の次のような関係を示唆している。

類別詞	所有物と所有者の関係
a-	食べ物
ma-	飲み物
bula-	動物・植物
no-	一般の所有物、個人の財産

オセアニア祖語では親族名称、全体と部分の関係、「私の怪我」のような受け身の所有が直接所有で表されていたと考えられている。そして間接所有の類別詞は食べ物、飲み物、一般の所有物を表していたと考えられており、それぞれ次のように再建されている (Lynch 1996)。

オセアニア祖語の類別詞

*ka-	食べ物
*ma-	飲み物
*na-	または *a (*ta- や *sa の可能性もある)
	一般

3.2.2. 類別詞 a-

類別詞 a- を介する所有物は、オレンジやココナツ、肉や魚など所有者にとって食べる対象となるものである。

- (54) E annan na famol a -m
 Imp eat Art orange Class-2SG.Poss
 ‘Eat your orange!’

(55) niu a -ku
 coconut Class -1SG.Poss
 ‘my coconut’

(56) arufi ma an tolu-andi¹⁰ a -ra
 rat 3SG.R eat egg-ant Class -3PL.Poss
 ‘The rat ate their rice’

3.2.3. 類別詞 ma-

類別詞 ma- を介して表される指示物は、ココナツや水、コーヒーやジュースなど所有者にとって飲む対象となるものである。ココナツのように食べることも飲むこともできるものは、所有者がそれを食べるつもり（もしくは食べているの）であれば類別詞 a- を、飲むつもりである（もしくは飲んでいるの）ならば類別詞 ma- を介する。このように同一の所有物であっても所有者との関係により生起する類別詞が異なる。

異なる類別詞が生起する例

niu a -ku	‘coconut to eat’
niu ma -ku	‘coconut to drink’
niu no -ku	‘coconut for neither eating nor drinking’
	(ex. To make coconut oil for cooking)

(57) ae ma -na
 water Class -3SG.Poss
 ‘his water (to drink)’

(58) e tau te suga na ti ma -m
 Imp put some sugar Art tea Class- 2SG.Poss
 ‘Did you put some sugar into your tea?’

3.2.4. 類別詞 bula-

類別詞 bula- を介して表される所有物は豚を除く動物、そして植物である。財産とみ

¹⁰ツツバ語の tolu ‘egg’ とビスラマ語の andi ‘ant’ は所有（直接所有 連結辞タイプ）の関係にあり、元は tolu-n andi ‘egg of ant’ であったと考えられる。この「蟻の卵」は米を意味する語である。なお調査の媒介言語であるビスラマ語で米は egg blong andi ‘egg belongs to ant’ である。このように所有表現で連結辞が脱落したと考えられるものには他に tolu-toa があり、これは若い世代では連結辞が脱落してこのように発音されているが、中年以上の世代では連結辞が脱落せず tolu-n toa と発音されている。

なされている豚には類別詞 *no-* が用いられるが、それ以外の動物、例えば鶏や牛、猫、そして植えられている植物や植物の苗など、発話の時点で食べる対象となっていない植物は、類別詞 *bula-* を介して表される。鶏や牛などの動物、そしてヤムイモやブレッドフルーツなどの植物が調理されているときや食べる目的で捕獲、収穫されるときには、所有者にとって所有物が『食べ物』であることを示唆する類別詞 *a-* が用いられる。

(59) *dam bula -ra*
yam Class -3PL.Poss
 ‘their yams (being planted)’

(60) *firiu bula -na me eno na ruirui -n teblu*
dog Class-3SG.Poss 3SG.R lie Art under-Link table
 ‘His dog is lying under the table.’

(61) *arifi -tamaute bula -m lo an*
rat-European Class-2SG.Poss Prog eat
te masi a -ra
some fish Class -1PL.Poss
 ‘Your cat is eating their fish!’

3.2.5. 類別詞 *no-*

類別詞 *no-* を介して表される所有物は、ツツバに住む人々が価値を置いていると考えられるもの、例えば権力と密接に関わる豚¹¹や土地のほか、靴やラジオなど新たに使用されるようになったものや、伝統的なもの、所属している島や村など、多様である。また一般に所有物であるとは考えにくいもの、例えば感謝や労働、火などもこの形式の指示物である。

類別詞 *no-* を介する所有物は、大きく次のように分類できる。

●伝統的なもの

価値が置かれている 土地 (畑を含む) 豚
 一般 皿 (バナナの葉) 珊瑚 貝殻

●伝統的でない物

金銭 聖書 傘 マッチ 車 家 服 ベッド

¹¹ 豚は権力の象徴である。

- 所属 島 村
- 親族以外の人 首長 客 宣教師 彼女 少年・少女 青年
- 全体と比較した量・数 少し¹²
- 儀式 首長の儀式 結婚式
- その他（数えにくい物） 感謝 親切 労働 火 話 汗

類別詞 no-を伴って現れる指示物のいくつかは伝統という観点から二つに大別できる。ひとつは植民地支配や宣教師の到来以前から伝統的に用いられているもの、もうひとつはそれ以降の異なる文化との接触により用いられるようになったものである。このうち前者の伝統的に用いられているものはさらに価値が置かれてきたものとそうでないものに分けられる。

3.2.5.1. 伝統的に使用されてきた物

価値が置かれている

- (62) E te lifti boe no -ku
 Imp Neg chase pig Class -1SG.Poss
 ‘Do not chase my pigs!’

一般

- (63) E l te roae no -m
 Imp take Art plate(lit. leaf) Class -2PL.Poss
 ‘Take your plate! (lit. Take your banana leaf!)’

3.2.5.2. 伝統的でないもの

- (64) trak no -m mo mbolo a
 car Class -2SG.Poss 3SG.R bang 3SG.O
 ‘Your car banged it.’

ツツバ島には車を所有する人はいないが、副都心の置かれるサント島には数多くの車やバス、木材や家畜を運ぶトラックが走っており、ツツバ島民もサント島で乗車する機会がある。車を購入するためには相当の資金が必要である上、ツツバまでの移送となるとかなりの額になることが予期されるため、車の所有は人々にとっての憧れである。

¹²いくらか ‘some of them’ や大多数 ‘many of them’ といった語についても、今後調査する必要がある。

また近年ラジオ局 (FM) がサント島に誕生したことにより、サント島の商店ではラジオが販売されるようになった。ラジオは電気が通っていなくとも電池があれば聞けるため、ツツバでも首長や大地主など一部の裕福な人が購入している。

(65) radio no -ra ma mondui ro mondui
 radio Class-1PL.Poss 3SG.R good and good
 ‘Their radio is very good’

このように類別詞 no-を介して表される一般の所有物の中にも価値の置かれている物が含まれる。また他に一般の所有物には家、ベッド、服、帽子、めがね、傘などがある。これらは全て間接所有の形式で表される分離可能所有名詞であるが、この類の名詞の中には下の ruru ‘clothes’ のように所有者接辞が直接付加できるものもある。

所有者代名詞接辞の付加		
分離不可能名詞	分離可能名詞	
義務的	可能	不可
nao -ku face -1SG.Poss ‘my face’	ruru -ku clothes -1SG.Poss ‘my clothes’	
	ruru clothes ‘clothes’	boe pig ‘pig’

服の他にも所有者代名詞接辞が付加することのできる分離可能名詞には、家、ベッド、ポート、火がある。ヴァヌアツの Araki 語 (François 2002) や Ambae 語 (Hyslop 2001) でも家を含む複数の語は、直接所有と間接所有の両方の指示物になりうる。Araki 語では、「家」が直接所有の指示物のとき「所有者の (住んでいる) 家」という意味になるが、間接所有の指示物のとき、家と所有者の関係は曖昧である (François 2002: 48)。一方 Ambae 語では「家」が直接所有の指示物のときは「私の (住んでいる) 家」という意味であり、間接所有の指示物のときは「私の (所有する) 家」という意味である (Hyslop 2001: 182)。ツツバ語でも 3.1.3. で示したように「ことば」が直接所有の形式で表されると「私の発話」と解釈され、間接所有の形式で表されると「私の伝言」として解釈されるというように、形式と意味に相関関係が見られた。しかしながら家やベッド、服といった指示物には Ambae 語のような明瞭な形式と意味との関連性が見られない。

- | | |
|---|--|
| (66) ima -ra
house -3PL.Poss
'their house' | (67) ima -i no-ku
house-Aff Class-1SG.Poss
'my house' |
| (68) ro -mbelata -m
leaf -banana ¹³ -2SG.Poss
'your bed' | (69) ro -mbelata no -m
leaf -banana Class -2SG.Poss
'your bed' |
| (70) ruru -ku
clothes -1SG.Poss
'my clothes' | (71) ruru
clothes
'the clothes' |

言語によっては親族名称や身体部位だけでなく、武器や漁網のような生活上の必需品が直接所有形式の指示物になる (大角 1999: 54)。これを考慮するとツツバ語において所有者接辞が付加することができる分離可能名詞は、他の分離可能名詞と比べて「日常生活における使用頻度や重要度が高いもの」であるとも考えられる。

3.2.5.3. 所属

南ヴァヌアツに下位分類される Erromango 島や Aneityum 島で話される言語には、出生した村などの「故郷」や伝統的のカストムにより所有されている「土地 (海も含む)」を所有物として生起する類別詞が存在している (Lynch 2001: 153-4)。北・中央ヴァヌアツに分類されるツツバ語にはこのような所有地・所属が対象となる類別詞は存在しておらず、これらは他の一般の所有物と同じく類別詞 no- を介して表される。

- | | |
|---|--|
| (72) dalu no -ku
garden Class -1SG.Poss
'my garden' | (73) vatifanua no -nda ma lafoa me seu
village Class -1PL.INCL 3SG.R big 3SG.R surpass
mer nira
place 3PL.IP
'Our village is bigger than those one.' |
|---|--|

¹³ro- mbelata は dry banana leaf のことである。西洋文明が入る前は当世風のベッドではなく、乾燥させたバナナの葉を敷いて寝ていたことから、ツツバ語ではこれがベッドを表す語として用いられている。

3.2.5.4. 親族以外の人

親族名称は分離不可能所有名詞で直接所有形式の指示物となるが、所有者にとって親族以外の人には間接所有の指示物となる。

- (74) ra -nofar le no -ku
 PL -child that Class -3SG.Poss
 ‘my that children’

nofar は日本語の「男の子・女の子」にあたるもので、幼稚園や小学生くらいの年齢の子供を対象にした名詞である。この分離可能所有名詞は親族だけでなく親族以外も対象に含む。他にも「少年、青年、中年」のような一定の年齢を対象としている名詞には次のようなものがあるが、この年齢はあくまでも目安であり厳密なものではない。

年齢	3～12	13～20	21～35	36～
呼称	nofar	ulufoe	baramali	nosea

「妻」や「夫」は直接所有の形式で表されるのに対し、「彼女」、「彼氏」は間接所有の形式で表される。彼女や彼氏に比べると妻や夫の存在は話者にとって緊密度が高いと推測される。

- (75) mesa -ku
 wife -1SG.Poss
 ‘my wife’

- (76) nna fafine no -m
 3SG.IP girl Class -3SG.Poss
 ‘Is she your girlfriend?’

また「友人」は妻や夫と同様に、直接所有の形式で表される。結婚しない限りは付き合いが途絶えることになる彼氏や彼女よりも、友人の方がより密な関係であるとみなされているのかもしれない。

- (77) fe -erua -ku
 female -friend -1SG.Poss
 ‘my female friend’

3.2.5.5. 全体と比較した数・量

3.1.4. で見たように「全体とその部分」は直接所有の形式で表されるが、「少し」のように「全体と比較した数・量」は間接所有の形式で表される。

- (78) efisasi no -ra ro fe taui matan lai-a-i
 few Class -3PL 3PL make ready for marriage-N-Aff
 ‘Few of them went to prepare for the marriage’

3.2.5.6. 儀式

島では結婚式、首長任命式などの儀式が行われる。これらの儀式は分離可能所有名詞である。

- (79) fefemboe-i no -ra
 ceremony-Aff Class- 3PL.Poss
 ‘their ceremony’

近年では laia ‘marriage’ や fefemboe ‘ceremony’ などの語に代わって英語やビスラマ語が用いられているが、語彙が借用されるだけで類別詞や所有の構造はツツバ語のままである。

- (80) marrigi no -ra
 marriage Class -3PL.Poss
 ‘their marriage’

3.2.5.7. その他

感謝、親切のような感情や態度を示す名詞に加え、労働、火、汗など物とは捉えられ難い名詞も間接所有の指示物である。

- (81) sasa-i no -ku ma lafoa
 work-Aff Class -1SG.Poss 3SG.R many
 ‘I have a lot of work. (lit. My work is many).’
- (82) ka reti rongonduia-i no -ku a fan¹⁴
 1SG.Ir tell gratitude-Aff Class- 1SG.Poss 3SG.Ir go

¹⁴fan や fa は fano ‘go’ の異形態である。

telei o matan masinei-a-i no -m
 pp 2SG:O because kindness-N-Aff Class -2SG.Poss
 ‘I would like to tell my gratitude to you for your kindness’

3.3. ②間接所有 b.(有標)

所有物	所有者
類別詞 - 所有者代名詞接辞	名詞

先に見た間接所有 a. の所有者が強調されるとき、間接所有 b. のように所有者が所有物に前置される。間接所有 a. の形式は無標で間接所有 b. の形式は有標である。

類別詞 no- (83) no -ku boe
 Class -1SG.Poss pig
 ‘my pig’

類別詞 a- (84) a -na basura
 Class -3SG.Poss papaya
 ‘his papaya’

類別詞 ma- (85) ma -ra hae
 Class -3PL.Poss Kava
 ‘their kava¹⁵’

類別詞 bula- (86) bula -m toa
 Class -2SG.Poss hen
 ‘your hen’

3.4 ③直接所有 連結辞タイプ

所有物	所有者
名詞句 - 連結辞	名詞句

①の直接所有は、所有物を表す名詞句に代名詞接辞が直接付加する所有形式であったが、今度は同じ直接所有でも所有物を表す名詞句に連結辞が付加し、それに後置され

¹⁵ オセアニア地域で広く飲用されている麻酔性飲料のことで、コショウ科の草本性灌木カバ piper methysticum Forst. から作られる (オセアニアを知る辞典 1994 より引用)。

る所有者として普通名詞や固有名詞が生起する『③直接所有 連結辞タイプ』を見てゆくことにする。

3.4.1. 連結辞

オセアニア祖語の所有者連結辞には i/qi が再建されており (Lynch 2001: 150)、またオーストロネシア祖語では「個人動作主・所有者 (personal actor/owner)」を示す語が *ni であったことが広く証明されている (Jauncey 1997 :240 Pawley & Reid より引用)。標準的なフィジー語などでは、所有者を表す名詞が固有名詞や親族名称のときに i が用いられているが、近隣の Tamambo 語 (Jauncey 1997) や Araki 語 (François 2002) では、所有者を表す名詞が固有名詞や親族名称のとき、所有者連結辞として ni が用いられており、所有者が普通名詞で表されるときに i が用いられている。

Tamambo 語の例

●所有者が固有名詞・親族名称のとき

- (87) domi -ni Boody
 neck -Link B.
 ‘Boody’s neck (name of pet dog)’ (Jauncey 1997: 240)

●所有者が普通名詞のとき

- (88) karu -i mwera
 leg -Link boy
 ‘boy’s leg (generic)’ (Jauncey 1997: 243)

所有者によって異なる連結辞をとるこれらの言語とは違い、ツツバ語では所有者を表す名詞句の種類に関わらず所有物と所有者を結ぶ連結辞が -n ひとつだけである。

Tutuba 語の例

●所有者が固有名詞

- (89) domi -n Tomas
 neck -Link Tomas
 Tomas’s neck’

●所有者が普通名詞

- (90) karu -n biti mera
 leg -Link small man
 'boy's leg'

3.4.2. ③ 直接所有の指示物

この連結辞を伴う直接所有の形式で表される指示物の多くは、先に見た直接所有 a. の形式で表される所有物と同一である。

親族名称

- (91) natua -n Jeffrey efisa
 siblings -Link Jeffrey how many
 'How many siblings does Jeffrey have?'

身体部位・身体にまつわるもの

- (92) nno fakoi na karu -n fe -natu -ku
 1SG.R wash Art leg -Link female -child -1SG.Poss
 'I washed my daughter's leg(s).'

属性

- (93) sia -n Tomas efisa
 age -Link Tomas how many
 'How old is Tomas?'

全体とその部分

- (94) masi lo to na aulu -n sios
 bird Prog stay Art top -Link church
 'The bird is on the top of a church.'

曜日

『①直接所有の形式』では基数に三人称単数の所有者代名詞接辞が付加すると序数が表されることを示した。1から7の「基数」が所有物を表す名詞として生起し、「日 (day)」が所有者を表す名詞として生起する『③直接所有の連結辞タイプ』の所有形式

では、月曜から日曜までの曜日が表される。曜日は月曜日から数えられ、例えば名詞句 e-tol 'three' が所有物のときは、「水曜日」という意味になる¹⁶。

- (95) e -tol -n bong-de¹⁷
 number -three -Link day -Aff
 'Wednesday (lit. the day's third)'

病気

- (96) fano -n Tura
 ringworm -Link Tura
 'Tura's ringworm'

3.5. ④間接所有 連結辞タイプ

所有物		所有者
名詞句	類別詞-連結辞	名詞句

所有物を表す名詞句と所有者を表す名詞句が、連結辞の付加した類別詞を介する所有形式を『④間接所有 連結辞タイプ』とする。所有物を表す名詞句の主要部には分離可能名詞が生起し、所有者を表す名詞句には固有名詞や普通名詞など、代名詞以外の名詞句が生起する。この所有形式で表される指示物は『②間接所有』の指示物と同じである。

類別詞 a-

- (97) ae ka fe te urende a -n Vicky
 will 1SG.Ir make some laplap Class -Link Vicky
 'I will make laplap for Vicky (to eat). (lit. I will make Vicky's laplap¹⁸.)'

類別詞 ma-

- (98) kofi ma -n mesa -n Tomas
 coffee Class -Link wife -Link Tomas
 'coffee for Tomas's wife (Tomas's wife's coffee)'

¹⁶このような曜日の表し方がかつてより存在していたのか、それとも宣教師の到来(ツツバ島民によると20世紀の半ばということである)により誕生したものなのかは定かでない。

¹⁷この環境に生起することが予測される接尾辞には心理的親しさを表す-ndeがあるが、名詞の語根がngのときには前鼻音化音が脱落し、-deとなる。

¹⁸Laplapとはヴァヌアツの伝統的な料理の呼び名である。

類別詞 **bula-**

- (99) firiu bula -n Moris ma maeto
 dog Class -Link Moris 3SG.R black
 ‘Moris’s dog is black.’

類別詞 **no-**

伝統的なもの

価値が置かれている

- (100) boe no-n chief¹⁹ Varnabas
 pig Class -Link chief Varnabas
 ‘Chief Varnabas’s pig’

一般

- (101) barleselese no -n Francis
 coral Class -Link Francis
 ‘Francis’s corals’

伝統的でない物

- (102) machi no -n Elles
 match Class -Link Elles
 ‘Elles’s match’

このほか②間接所有の指示物と同じく所属、親族以外の人、全体と比較した量・数、儀式、その他の名詞句がこの所有形式の指示物となる。

また疑問詞 *se* ‘who’ は、この所有形式の所有者の位置に現れ、所有の疑問文を形成する。

- (103) firiu bula -n se
 dog Class -Link who
 ‘Who’s dog is it?’

¹⁹Chief はツツバ語で *sumbe* であるが、現在ではこのようにツツバ語以外の語彙が頻繁に借用されている。本稿では調査協力者の発音どおりに記述している。

3.6. 主題化

所有者	所有物
名詞句 i	名詞句
類別詞 - 所有者代名詞接辞 i	

上に示したような形式で所有が表されることがある。これは『④間接所有 連結辞タイプ』の所有者を主題化したものである。

これまで見てきた①から④の所有を表す名詞句は、主語にも補語にもなり得るが、ここに挙げた所有表現が補語の位置に現れることはない。また調査協力者がツツバ語の表現に対して答えたピスラム語（調査の媒介言語）の訳語を参考にすると、①から④の所有形式で見た名詞句はピスラム語で ‘A blong B’ 「A の B」と訳されるのに対し、この所有表現は ‘A i gat B’ 「A は B を持っている」と訳される。このことから、これは節 (nonverbal clause) であると考えられる。

この所有を表す節では、所有者を表す固有名詞や普通名詞、そして独立主語代名詞に類別詞が後置され、その類別詞には所有者と人称・数が一致した所有者代名詞接辞が付加する。そしてそれに所有物を表す名詞句が後置される。節の頭に生起するのは、主題化された固有名詞や普通名詞、独立主語代名詞である。

この節は所有物を修飾する数量詞や数詞を含むことが多い。

(104) Elles no -na kuku merei
 Elles Class -3SG.Poss saucepan some
 ‘Elles has some saucepans.’

(105) Moris bula -na bulak aia
 Moris Class -3SG.Poss cow some
 ‘Moris has some cows.’

(106) Nno te no -m mera
 2SG.IP Art Class -2SG.Poss man
 ‘Do you have a boyfriend?’

(107) Nao a -ku famol erua
 1SG.IP Class -1SG.Poss orange two
 ‘I have two oranges (to eat).’

4. 所有物の省略

日本語の会話文では、対象とする物が話し手と聞き手の両方に明らかであるとき「これは私のです」と言うことができる。このような対象物の省略はツツバ語の所有表現にも見られる。ツツバ語では話し手と聞き手に指示物が明らかであるとき、間接所有形式の指示物が省略される。ただし直接所有の指示物が省略されることはない。

② 間接所有 a.

(108)	urende	a -ku	→	(109)	a -ku
	laplap	Class -1SG.Poss			Class -1SG.Poss
	'my laplap'			'It is mine to eat'	

間接所有 b.

(110)	no -na	tangai	→	(111)	no -na
	class -3SG.Poss	bag			class -3SG.Poss
	'his bag'			'It is his.'	

④ 間接所有 連結辞タイプ

(112)	nani	bula -n	Moris	→	(113)	bula -n	Moris
	goat	Class -Link	Moris			Class -Link	Moris
	'Moris's goat'				'It is Moris's (animal/ plant).'		

(114)	leta	nende	no -n	se	→	(115)	no -n	se
	letter	this	Class -Link	who			Class -Link	who
	'Who does this letter belong to?'					'Whose is it?'		

二つ以上の所有表現がひとつの名詞句で表されるときにも一部が省略される。例(116)は「話の終わり」、(117)は「私の話」である。「私の話の終わり」というときには先の二つの名詞句に共通する「話」を介して(118)のようにひとつの名詞句で表される。

(116)	efana-n	ulndulndunnna -i
	end -Link	story -Aff
	'the end of story'	

(117) ulndulndunna -i no-ku
 story -Aff Class-1SG.Poss
 ‘my story’

(118) efana-n ulndulndunna-i no-ku
 end -Link story -Aff Class -1SG.Poss
 ‘the end of my story’

この所有表現 (118) の分離可能所有名詞 ulndulndunna-i 「話」が省略され、名詞句全体の主要部と所有者を表す名詞句だけが残った省略の例が次の (119) である。このように話し手と聞き手にとって明らかである分離可能所有名詞は省略されることがある。

(119) efana-n no-ku
 end -Link Class -1SG.Poss
 ‘the end of mine’

5. 結論

所有の形式とその指示物を一覧にすると次のようになる。なお強調とは、どの類の名詞が所有表現の指示物であるときに所有者が強調または主題化され得るかを示している。

類別詞	所有物	例	所有表現				強調
			① 直接	② 間接	③ 直接 連結辞	④ 間接 連結辞	
—	親族名称	妻 兄弟	○	—	○	—	—
—	身体部位	手 咳	○	—	○	—	—
—	身体関連	汗	○	—	○	—	—
—	属性	声 発話	○	—	○	—	—
no-		伝言	—	○	—	○	○
—	全体と部分	穴 上下	○	—	○	—	—
—	序数	二 番目	○	—	○	—	—
—	曜日	水 曜日	—	—	○	—	—
—	病気	水 虫	○	—	○	—	—
a-	食べ物	ヤムイモ	—	○	—	○	○
ma-	飲み物	水	—	○	—	○	○
bula-	動物	牛 山羊	—	○	—	○	○
no-	伝統的価値有り	土地 豚	—	○	—	○	○
no-	一般	珊瑚	—	○	—	○	○
no-	近代的	聖書 傘	—	○	—	○	○
no-		家 服	○	○	○	○	△
no-	所属	島 村	—	○	—	○	○
no-	親族以外	客 彼女	—	○	—	○	○
no-	全体と比較した数・量	少し	—	○	—	○	○
no-	儀式	結婚式	—	○	—	○	○
no-	その他	感謝 労働	—	○	—	○	○

○・・・可 —・・・不可 △・・・間接所有のときに可

また所有表現における名詞句の主要部とそれを修飾する語句は、次の順番で生起していることが分かった。

- | |
|--------------------------------|
| 1. 冠詞 |
| 2. 類別詞+所有者代名詞接辞 |
| 3. 主要部 |
| 4. 主要部を修飾する名詞(自由形態素・拘束形態素)・形容詞 |
| 5. 連結辞+名詞句 |
| 6. 指示詞 |
| 7. 数量詞 |
| 8. 類別詞+所有者代名詞接辞 |
| 9. 類別詞+連結辞+(名詞句または疑問詞) |

ただしひとつの名詞句の中で4と5は共起しない。また本稿では扱わなかったが10. 番目には関係節が生起すると考えられる。

(120) 【Lima -ku】 NP

arm	-1SG.Poss
3	4
'my arm'	

(121) 【bula-m boe】

Class-2SG.Poss	pig
2	3
'your pig'	

(122) E 1 【te famol a-na】

Imp	take	Art	orange	Class-3SG.Poss
		1	3	8
'Bring his orange!'				

(123) 【nani forfor etea bula-ku】

goat	small	one	Class-1SG.Poss	
3	4	6	8	
lo	ate	【na	malualu-n	fae】
Prog	stay	Art	shadow-Link	tree
		1	3	5

'My small one goat is lying down in the shade of the tree.'

資料 1

Ross, Pawley and Osmond(1998:2-3)によると最初の体系的な POC の音、語彙の再建は Dempwolff(1937) によって行われたとのことである。そしてその後多数の学者が研究し、Dempwolff の考察に変更を加えている。Grace(1969) は約 700 にものぼる項目から POC を再建し、新しい書記法を提示した。さらにそれをもとに Blust(1970), Lichtenberk(1986), Ross(1988) などが様々な仮説を立て分析を行った。Ross は Grace などとは異なる分析から、実際の発音により近いと考えられる記号を用いて新しい書記法を提案した。Grace や Ross の書記法では以下のような記号が用いられている。

Grace(1969) 他と Ross(1988) の再建したオセアニア祖語 (子音)

POC…オセアニア祖語

POC Grace (1969) 他	*p	*mp	*ŋp	*t	*nt	*j	/	*k	*ŋk	*q	*d	*nd
POC Ross (1988)	*p	*b	*bw	*t	*d	*c	*j	*k	*g	*q	*r	*dr

POC Grace(1969) 他	*s	*ns	*ŋm	*m	*n	*n?	*ŋ	*l	*R	*w	*y
POC	*s	/	*mw	*m	*n	*n?	*ŋ	*l	*R	*w	*y

< Lynch, Ross and Crowley (2002), Ross(1988) をもとに >

オセアニア祖語とツツバ語の比較

POC…オセアニア祖語 (Grace 1969 の再建による) T…ツツバ語

POC	*p	*mp	*ŋp	*t	*nt	*d	*nd	*l	*s	*ns
T	β	b, b'	b	t	d	d, r	r?	l	s	s

POC	*k	*ŋk	*m	*n	*ŋ	*ŋm	*q	*r	*r	*w	*y
T	k, ø, h?	k	m, m'	n	ŋ	m	ø	r	r, ø	ø	ø

省略記号

1,2,3	first, second, third person	Link	possessive linker
1Inc.	first person inclusive(plural)	N	noun derivation
1Exc.	first person exclusive(plural)	Neg	negative particle
Aff	affective	PL	plural
Art	article	Poss	possessive pronominal
Class	classifier	Prog	progressive
Imp	imperative	R	realis
IP	independent pronoun	SG	singular
Ir	irrealis		

参考文献

- 石川栄吉 [ほか] 監修 1990.
『オセアニアを知る事典』 平凡社
- 大角 翠 1999.
「メラネシアの言語的多様性」『月刊言語』大修館書店
- Crowley, T. 2001
Erromangan possessive morphology. In Bradshaw, J and Rehg, Kenneth L, eds
Issues in Austronesian Morphology. Canberra: Pacific Linguistics 519.
- François, A. 2002
Araki: A disappearing Language of Vanuatu. Canberra: Pacific Linguistics 522.
- Hyslop, C. 2001
The Lolovoli dialect of the North-East Ambae language, Vanuatu. Canberra: Research School of Pacific and Asian Studies, The Australian National University.
- Jauncey, D. 1997
A Grammar of Tamambo, the Language of Western Malo, Vanuatu. Unpublished
PhD thesis, Australian National University.
- Lynch, J. 1996
Proto Oceanic possessive-marking. In John Lynch and Fa'afo Pat, eds Oceanic
Studies: Proceedings of the First International Conference on Oceanic Linguistics,
93-110. Canberra: Pacific Linguistics.
- Lynch, J. 1998
Pacific Languages: An Introduction. Honolulu: University of Hawai'i Press.
- Lynch, J. and Crowley, T. 2001
Languages of Vanuatu: A new survey and bibliography. Canberra: Pacific Linguistics 517.
- Lynch, J. 2001
The development of morphologically complex possessive markers in the Southern
Vanuatu languages. In Bradshaw, J and Rehg, Kenneth L, eds Issues in
Austronesian Morphology. Canberra: Pacific Linguistics 519.
- Lynch, J., Ross, M. and Crowley, T. 2002
The Oceanic Languages. Surrey: Curzon Press.

- Rehg, Kenneth L. 2001
Pohnpeian possessive paradigms. In Bradshaw, J and Rehg, Kenneth L, eds Issues
in Austronesian Morphology. Canberra: Pacific Linguistics 519.
- Ross, M. 1988
Proto-Oceanic and the Austronesian languages of Western Melanesia. Canberra:
Pacific Linguistics, C-98.
- Ross, M. 1998
Proto Oceanic phonology and morphology. In M. Ross, A. Pawley and M. Osmond
eds. The Lexicon of Proto Oceanic.Vol.1: Material Culture, 15-35. Canberra:
Pacific Linguistics, C-152.
- Tryon, D.T. 1976
New Hebrides Languages. Canberra: Pacific Linguistics, C-50.
- Wurm, S.A. and Wilson, B. 1975
English finderlist of Reconstructions in Austronesian Languages (Post-Brandstetter)
Canberra: Pacific Linguistics, C-33.
- SIL(<http://www.ethnologue.com/>) 2004/12/02 時点

Summary

Possessive Expressions in Tutuba

Maho NAITO

The Tutuba language has several types of expressions to denote possession, including a verb meaning 'exist', four main types of possessive noun phrases, and a clause by which possessor is topicalized. This paper focuses on the possessive noun phrases, and considers how the semantic relation between a possessed and a possessor would be reflected in possession form.

The four main types of possessive noun phrases are as follows. (1) [Direct construction] Possessive pronominal (the possessor) is suffixed to the NP head (possessed). (2) [Indirect construction] Pronominal possessor suffixing to a classifier follows to the Possessed. (3) [Direct construction Link type] When the possessor is either a proper noun or a NP, and possessed is bound noun, the Linker is required on the possessed. (4) [Indirect construction Link type] When the possessor is either a proper noun or a NP as in (3), and possessed is free noun as in (2), the linker suffixes to the one of four classifiers.

The possessed nouns of the Direct possessive constructions, (1) and (3), are kinship terms, part-whole relationships and body parts, etc. The possessed nouns of the Indirect possessive constructions, (2) and (4), are foods, general things, animals, messages, etc.

The four classifiers which occur in indirect constructions show the relationship between possessed and possessor are follows: ①. a- edible ②. ma- drinkable ③. bula- animals and plants ④ general things, personal property.

The four possessive constructions imply the intimation between the pos-

possessed and possessor. In (1) and (3) constructions, a semantic relation between a possessed and a possessor is strong, although in (2) and (4), a semantic relation between a possessed and a possessor is less strong than the Direct construction and possession is temporally.